

研究の概要

研究テーマ：「牧場での酪農体験学習が児童・生徒の学びや育つ力にどのように貢献できるかを
質問紙・行動分析等の手法を活用して総括的に検討する。」

研究代表者： 広島大学大学院教育学研究科 教授 角屋 重樹
研究受託代表： 大妻女子大学学長 大場 幸夫

本研究は、「①酪農教育ファームにおける酪農体験活動を通して、子どもにどのような力が育つのかを調査する。」、「②酪農体験活動ごとの教育的効果を発現する酪農家や教師による教育的支援のあり方を検討する。」の二つの目的からなっている。そこで、本報告書も二部構成とした。

一部 酪農教育ファームにおける体験活動を通して子どもに育成される力に関する研究

I. 研究の方法

牛と関わる活動によって子どもに育つと考えられる力を選別しました。また、酪農体験活動毎に、選別された力が育成できるのかを問う質問項目（48項目）を作成し、2009年6～9月にかけて大学生（201名）、教師（103名）、酪農家（187名）を対象にアンケート調査を行いました。アンケート調査した結果を基に、大学生、教師、酪農家が、酪農教育ファームにおける体験活動を通して育てることができると捉えているものが何であるかを分析し、解釈していきました。

II. 結果

調査の結果、酪農教育ファームにおける体験活動を通して子どもに育つ力は、大学生、教師、酪農家で捉え方が異なることが明らかになりました。詳細を以下に示します（下図は、三者の捉え方をまとめたものです）。

【大学生の捉え方】

①「牧場のことをもっと調べたいと思う」「牛乳を飲ませてくれる牛に感謝の気持ちをもつことができる」などのような、酪農に関する『関心・意欲・態度』が子どもに育つだろう。②「乳房の血管に注目することができる」「ブラッシングの作業ができるようになる」などのような、酪農に関する『知識・技能』が子どもに育つだろう。

【教師の捉え方】

大学生と同様に、①酪農に関する『関心・意欲・態度』、②『知識・技能』が子どもに育つだろう。③「餌を作ることができるようになる（牛の状態を考えて、餌の質や量を調整できる）」「餌をあげるときに、牛のことを思いやることできる」などのような、『餌に関する技能・態度』が子どもに育つだろう。

【酪農家の捉え方】

大学生や教師と同様に、①酪農に関する『関心・意欲・態度』が子どもに育つだろう。②「乳房の血管に注目することができる」「自分たちが使うくしと牛のブラシの違いに気づくことができる」などのような、酪農に関する『知識』が子どもに育つだろう。③「ブラッシングの作業ができるようになる」「掃除することができるようになる」などのような、酪農に関する『技能』が子どもに育つだろう。④「餌を作ることができるようになる（牛の状態を考えて、餌の質や量を調整できる）」「餌を作るときに、牛のことを思いやることできる」などのような、『餌に関する技能・態度』が子どもに育つだろう。

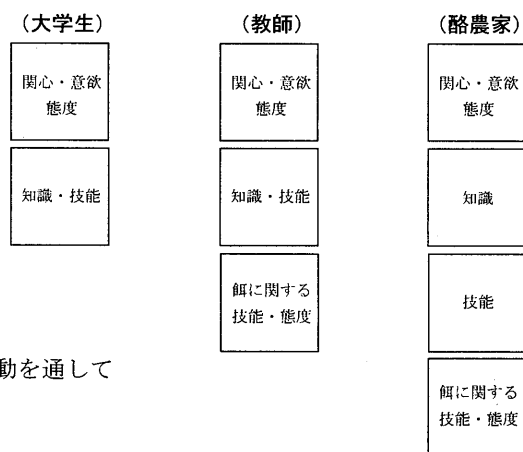


図 酪農教育ファームにおける体験活動を通して子どもに育つと捉えている力

上図から、以下のことを推察できます。大学生とは異なり教師と酪農家は、「餌に関する技能・態度」を、「関心・意欲・態度」、「知識」や「技能」と峻別して捉えています。このことから、例えば教師や酪農家は、酪農教育ファームでの体験活動によって、子どもは牛のことを考えて餌をあげると言った牛を思いやる心や、他者意識が育つと考えていることが推察できます。そこで、更に実際の体験活動の様子や個々の体験活動での酪農家や教師の子どもへの働きかけを検討する必要性が見出されました。

二部 北海道、東北、東海、中国、九州の各地区での現地調査を通しての酪農教育ファーム活動における酪農家や教師による教育的支援のあり方の検討に関する研究

I 研究の方法

北海道、東北、東海、中国、九州の各地区の研究者がそれぞれの地区の牧場を訪問し、実際の体験活動を行っている様子の観察並びに、酪農家と学校へのインタビュー調査を実施しました。体験での行動の観察並びにインタビュー調査の結果をもとに、どのような活動で教育的な効果が見られるのか。また、酪農体験活動を行う際の酪農家や教師の子どもへの働きかけを分析していきました。

II 結果

- 餌の与え方、そのときの教師の声かけ、酪農家の声かけのあり方を検討していくと、餌やりの活動で子どもに大きな変化が観察された。しかし、酪農家から子どもへの働きかけは見出せなかった。また、少数ではあるが教師によっては子どもへの声かけが見出された。
- 観察した牧場においても、酪農体験を年間で継続的に複数回行っている学校はきわめて少なく、事前・事後指導も十分に行われていない学校が多かった。これらのことから、年間で1回程度しか活動行っていない学校に注目し、少ない回数での酪農体験活動での教育的な効果に注目する意味を見出した。
- 優れた指導を行っているといわれている酪農家の指導の様子を映像に取り、声かけ、活動内容、などを分析する必要がある。
- 活動ごとに、教師の働きかけ、酪農家の働きかけを分析していく必要がある。そこで、これまでの実践事例での報告を分析したり、今年度の調査結果を検討したりすると、酪農教育ファームの特徴的な酪農体験活動として「餌やり」「搾乳」「牛舎掃除」「ブラッシング」をあげることができる。これらの活動ごとに、①教師あるいは酪農家の子どもへの声かけ、②これらの活動の提供の仕方を分析し、相手(牛)を意識した適切な指導方法を明らかにしていく必要がある。

その例として、想定できる声かけとしては、以下のようなものが考えられる。

例) 餌やり:「手を伸ばして、牛が食べやすいように餌をあげて。」のように牛が食べやすいように餌をあげるように牛のことを思いやるような声かけを行う。